

異文化理解研修（韓国）参加者レポート 2014

■参加者インタビュー

Q. 研修開始前や開始直後の印象は？

A. 私は、この異文化理解研修に参加する前、留学、学習、国際理解に対する意欲、関心は、皆無に等しかったです。参加前は、今回の異文化理解研修のように、海外に行って学ぶという経験もなければ、海外に留学したいという意欲もありませんでした。しかし、この異文化理解研修が始まるとそれは大きく変わりました。

Q. 研修内容はどのようなものでしたか？

A. 研修では、平日の昼間に韓国語の授業がありました。先生がほとんど韓国語で授業を進めていたので、韓国語で言っていることが、最初は速くて、よく理解することができませんでした。しかし、日が経つにつれて耳が慣れ、韓国語で先生が話していることがだまかに理解できるようになりました。授業中は私も韓国語でしゃべられなければならなかったので、聞く能力のみならず、会話能力も成長したのではないかと思います。

また、1週間に2～3回行われた文化授業は、オンギ体験、韓国文化体験、映画など、韓国の文化を直接体験できる内容であったので、普段の大学の授業や日本では学ぶことができない貴重な体験ができました。この文化体験授業においては、福岡大学や愛媛大学、宮崎公立大学、目白大学の人もも交流することができ非常に楽しいものとなりました。

Q. 研修中、印象的なことはありましたか？

A. 研修期間中の最後の休日、バスに乗って釜山に行こうとしているとき、バスが満員のときがありました。席に座れずにいた高齢者がいましたが、ある若者がすぐに席を立ち、高齢者に席を譲ったのです。この光景は、一回だけではなく、研修期間を通して数多く、頻繁に目にしました。このように韓国では目上の人をすごく大切にしており、日常生活においても、目上の人を敬うという心の表れであろう後継を数多く見ることができました。私は、この精神は日本も見習うべきではないかと感じました。日本とは異なる韓国の文化を、身をもって体験したことにより、もっと他の国の文化も体験したいと思えるようになりました。この研修に参加する前は、このような体験がこんなに面白いとは思いませんでした。

Q. 研修を終えての感想を教えてください。

A. 今回の異文化理解研修を通して、言語も文化も慣習も違う土地で、多くの人々と出会い、交流し、学ぶことができました。これからは、もっともっと海外に繰り出したい

と思っています。また、韓国語能力試験への挑戦や、県大に来る短期研修の留学生チューターとして海外の人をサポートするなどの目標が出来ました。この研修で、私の国際交流への門は開かれたと思います。1年次には、ためらっていた国際交流への第一歩を踏み出すことが出来、異議のある体験になったと感じています。

■研修の様子

